

# 知的障がい特別支援学級 自立活動学習指導案

令和2年12月実施

指導者 新潟市立上山小学校 教諭 阿部 直子

## 【授業の構想】

自立活動の指導は、最初から集団で指導することを前提とするものではない点に十分留意することが重要と、学習指導要領解説は強調している。しかし、在籍全児童の「自立活動の個別の指導計画」を作成してみた結果、この3名については、遠慮や緊張することなく安心して活動でき、関わりたい、もっと仲良くなりたいと心底思える小集団のなかで指導することが効果的と考えた。

自立活動の指導は、児童自身が自立を目指し、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、自己を肯定的に捉えることができるような指導内容でなければならない。そのためには、児童自身が、目標（ねらい）を自分なりに理解でき、自身の「障がいによる学習上又は生活上の困難」を短所・欠点として思い知らされるのではなく、「なりたい自分」として肯定的・未来志向で自身に向き合うなかで結果的に困難を克服していく学習活動にしたい。

そこで、今よりももっと「ともだちマーク（3名の児童が笑顔で肩を組んでいるイラスト）が似合う小学生になろう」という単元で様々な活動に取り組み、友だちも自分も「ともだちマークが似合う小学生」に成長していくことを互いに目指し、成長を互いに認め合い喜び合うことができるように活動を構想した。

本時は、双六を3名で作成し、取り組む活動が中心となっている。マスは、児童が考えた内容を取り入れながら、3人で一緒に取り組むもの、一人で活動するものなど絵と文字のカードにし、相談しながら選択し・並べることができる双六とする。3名で取り組む活動の際には、「～さん、一緒にやろう」と誘うモデル文、相談の時の言葉、断る時の言葉を示したり、意思表示できるカードを準備したりする。イライラしたり自己主張がぶつかり合ったりしたときも、絶好の指導チャンスととらえ、気持ちを切り替えたり、友だちが落ち着くまで待ったり、またなだめるなどの姿も、「ともだちマークが似合う小学生」にまた一歩近づいた姿として価値づけていきたい。

## 1 単元名 ともだちマークが似合う小学生になろう～12月クリスマス会をしよう～

## 2 自立活動の指導目標・指導内容（自立活動の個別の指導計画から抜粋）

個人情報のため略

## 3 単元の目標

### 【知識・技能】

友だちとゲームや制作活動を通して、遊びのルールを守ったり、友だちとのやりとりの仕方を真似たりして活動に参加できる。

### 【思考力・判断力・表現力等】

自分の考えや楽しい、嬉しいなどの気持ちを伝えたり、相手の意図を聞いたりして、やりとりができる。

### 【主体的に学習に取り組む態度】

自分から制作活動やゲームに取り組もうとしたり、友だちにかかわろうとしたりする。

## 4 指導計画（総時数6時間）

時間	ねらい	学習活動
1次 (2H)	クリスマスの飾りづくりを通して、友だちに聞く・教えるなど適切なやりとりをすることができる。	○「ともだちマーク」が、似合う小学生になるために、12月は、楽しくクリスマス会に取り組むことを知る。 ○飾る物を教師と一緒に折り紙で折った後、友だち同士で教えたり、聞き合ったりしながら作る。 ○作った飾りを長いリボンに飾り、協同製作の作品に仕上げる。
2次 (3H) 本時 2/3	クリスマス会の双六作りやリトミックを通して、友だちと適切なやりとりをしたり、ルールを守ったりして活動することができる。	○クリスマス会のプログラムを決め必要な準備をする。 ○2m四方の布を3名で持って、音楽に合わせて歩いたり、上下に動かしたりなどの動きのルールを守って活動をする。（リトミック） ○双六のマスの内容を考えたり、マスの順番を相談したりして、双六をする。
3次 1H	クリスマス会に友だちを招待することを通して、より多くの友だちとやりとりをしたり、か	○同じ学級の友だちをクリスマス会に招待をし、クリスマス会を運営する。

	かわったりすることができる。	
--	----------------	--

## 5 本時の計画（児童数 計3名）

### (1) 本時のねらい

クリスマス会について、友だちと一緒に双六やリトミックなどの活動をするを通して、友だちと適切にやりとりをしたり、ルールを守ったりして参加することができる。

### (2) 本時の児童のねらいと手立て

	本時のねらい	本時の手立て
A 児	双六の3名で取り組む活動と一緒に参加したり、自分の希望に添わない時でも、相談したりして納得して参加できる。	○双六のマスに本児が好む活動を取り入れる。(握手をしよう、ハイタッチなど) ○3名で取り組む活動に誘われても参加したくない時は、意思表示がしやすいように「お休みします」というカードを準備する。 ○意思表示を友だちにしたり、譲る場面が見られたりした時は、「ともだちマークが似合う小学生だね」と称賛する。
B 児	友だちと相談する時、「～さん何がいい?」と聞いたり、相談場面で自分の意見と異なることでも、相手の意見を聞いて譲ったりすることができる。	○相談時の話形「～さんは、何がいい?」を示す。 ○相談場面になった時に、「～さんに、聞いてみよう」とタイミングを示す。 ○3名の意見がそれぞれ異なり決められない時には、教師が介入し、「自分の意見を言うだけでなく、友だちの意見もちゃんと聞くことができ、ともだちマークが似合う小学生だね」と称賛し、譲ることも「ともだちマーク」ということを示す。
C 児	双六や選択場面などで自分から「～しよう」と友だちを誘ったり、聞かれた時にも適切に答えたりすることができる。	○双六や選択場面では、絵カードや具体例を示し、自分の意見を言えるようにする。 ○友だちを誘う際の話形「一緒に～しよう」を示し、本児がその言葉を使用場面でカードを示したり、「一緒に」と最初の単語を手掛かりとして言ったりする。 ○友だちのしていることを進んで手伝っていたり、良い言葉掛けをしたりした時に、ともだちマーク」だねと称賛し、自信がもてるようにする。

### (3) 展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	○指導上の留意点■評価
1 本時の活動の見通しをもつ。 (7分)	T1 今日も、クリスマス会を楽しみましょう。プログラムは、はじめのあいさつ、双六、ミュージックツリー、終わりのあいさつです。 S1 双六、楽しみだね。 S2 友だちと一緒に頑張る。 T2 やる気満々ですね。今日のクリスマス会も、 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学習課題 「ともだちマーク」があう小学生になるためには、どうすればいいのかな。</div> A1 友だちとなかよく遊ぶ。 B1 友だちに教えてあげる。 C1 自分の意見を言う。 T3 今日も、ともだちマークが似合うように自分のめあてができるといいですね。	○クリスマス会のプログラムを掲示し、本時の活動を想起できるようにする。 ○3名の個々のめあてをイメージできる「ともだちマーク」を授業のシンボルマークとする。 ○毎時間、同じ学習課題にとし、個々のねらいが達成できるようにする。 ○各自で、自分のめあてを確認する。
2 クリスマス会をする。 (30分) ・双六の準備をして始める。	T4 クリスマス会を始めましょう。司会のBさんお願いします。 B2 「はじめの言葉」Cさんお願いします。 C2 これからクリスマス会を始めます。 B3 次は、双六です。「ともだちマーク」が似合う小学生の皆さん、みんなで作りましょう。(B児が手順表を読む) ①20枚のカードの中から、一人4枚選びます。	○C児が自信をもって友だちの前で話ができるように短い言葉で表現できる「はじめのことばのあいさつ係」とする。 ○双六を作る時は、リーダーとなるB児が中心となって、作り

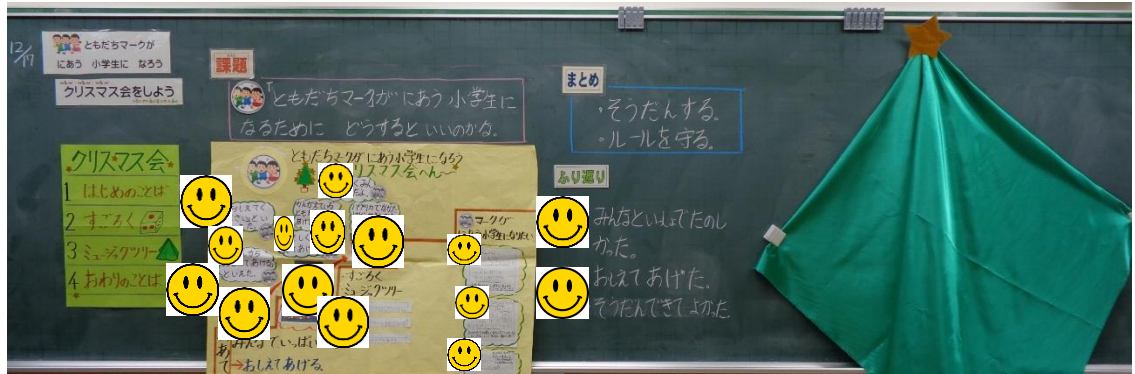
<p>・ミュージックツリーの準備をして始める。</p>	<p>②4枚のコマをケースの中に入れます。  ③入れる時、お友だちの分も手伝います。  双六を作りましょう。  S3 20枚の中から各自で4枚選び、C児は、自らA児のカードも手伝いケースに入れる。  T5 Cさん、Aさんの分も自分から手伝ってすごいね。ともだちマークが似合うね。(ともだちマークをホワイトボードに貼る)  双六のルールも守ることができると、「ともだちマーク」ですね。ルールをお話します。  ①3名で一緒にする活動の時は、「一緒にしよう」と言いましょ  う。  ②隣の人とする時は、「～さん、一緒にしよう」と言いましょ  う。  ③もし、お休みしたい時は、「お休みします」と言いましょ  う。  3名で「ともだちマーク」が似合う小学生になりましょ  う。  S4 じゃんけん後、サイコロを転がしコマを進めていく。  ・止まったマスの内容に合わせて、3名で活動をする。  ・友だちと一緒に活動する内容は、「～さん、一緒にやろう」と  名前を呼んで活動に誘う。  ・参加したくない活動の時は、「休みます」とはっきり自分の気  持ちを伝える。  T6 3名がゴールをしたら、やりとりや行動面でめあてに関連す  る部分を「ともだちマーク」が似合う小学生になってきたと  ホワイトボードのマークを提示して具体的に個々に称賛をす  る。  S5 3名でマスや台紙を協力して片付ける。  B4 楽しく双六ができたので、最後はミュージックツリーです。  音楽は、「パプリカ、トトロ、さんぽ」です。やりたい曲のとこ  ろに写真を貼りましょ  う。  A2・C4 希望する曲名の所に写真を貼る。  S6 3名の希望曲が、一致した時は、その曲に決定する。2曲、3  曲に分かれ時には、どの曲にするのか、相談の場とする。  T7 譲ることができることも、「ともだちマーク」が似合う小学生  になることを話す。譲ることができた児童には、大きな称賛を  し、「ともだちマーク」を貼る。  なかなか納得が得られず、児童からも決め方の提案がない時は、  前時「さんぽ」と使用したことから本時は、他の曲にしてはど  うか、提案する。  S7 3名が納得をした曲でミュージックツリーを行う。曲に合わ  せて、左右歩行を変えて歩いたり、上下にしたりして一つの物を  共有し動きのルールを守って活動をする。  B5 「終わりのことば」Aさん、お願いします。  C3 これでクリスマス会を終わります。</p>	<p>方の手順表を見ながら友だち  に伝える。(双六のマスは、20  枚準備し、14枚選択をする。  マスには、友だちとかかわる内  容の活動も入れる。例：輪にな  ってジャンプ、ハイタッチをす  るなど)  ○双六開始前に、友だちの誘い  方や断り方を提示する。  ○個々の自分のめあてに関連  する言動や友だちに対し、自分  から手伝ったり、教えてあげた  りなどの言動が見られた時に  は、すかさず称賛し「ともだち  マーク」をホワイトボードに貼  り、双六と「ともだちマーク」  が乖離しないように、言動を価  値付ける。  ○A児が参加しない様子の時  は、「お休みします」のカードを  指し、自分から友だちに伝えら  れるようにする。  ■A児：友だちに誘われた時に  一緒に活動に参加したり、やり  たくない時にカードを出して  伝えたりしている。  ○C児が双六のマス of 問いに  答えられない時には、具体例を  示し、選択で答えることができ  るようにする。  ■C児：カードを手掛かりに  「一緒に～しよう」と誘ってい  る。  ○3名で2m四方の布を持っ  て、音楽に合わせて輪になっ  て歩いたり、上下に布を動かした  りする。3名だからこそできる  リトミックを取り入れる。  ○リトミックの選曲も、3曲か  ら相談をして選択をする場を  設ける。  ○A児が希望する曲でなく、納  得できない時、「譲ることもと  もだちマークが似合うこと」や  今まで称賛をしてきた言動を  振り返る言葉掛けをする。  ■B児：自分と異なる意見があ  った時に、譲ろうかどうしよ  うか考えている。</p>
<p>3まとめと振  り返りをす  る。  (8分)</p>	<p>T8 今日のまとめをしましょ  う。今日も、「ともだちマーク」が似  合う小学生になってクリスマス会  ができましたか。  A3 友だちと双六が楽しかった。  B6 相談できた。  C4 双六で、ちゃんと友だちに言  えた。</p>	

	<p>T9 どうして、楽しかったのかな？</p> <p>S8 ちゃんと相談した。</p> <p>S9 約束ができたから。</p> <p>T10 まとめましょう。「ともだちマーク」がにあって小学生になるには</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>まとめ</b> みんなと相談する。ルールを守って遊ぶ。</p> </div> <p>T11 振り返りをしましょう。一人ずつ、聞きますよ。</p> <p>A4 友だちと遊んで楽しかった。</p> <p>B7 相談できて、譲ってあげた。</p> <p>C5 双六で、ともだちマークがいっぱいになった。</p> <p>T12 自分のめあてができましたね。「ともだちマーク」を貼ることができますね。おめでとう。今度は、お友だちを呼んで一緒にやりましょう。</p>	<p>○振り返りで、本時のめあてを評価し、本来の各自の自立活動の目標に戻り、少しずつ目標に近づいていることを「ともだちマーク」のシールの数で確認させる。</p>
--	---	--

## 6 評価

- A児：双六やりトミックの遊びのルールを守って、友だちと一緒に参加している。
- B児：友だちと相談する際には、友だちの考えを聞いて決めようとしたり、譲ろうとしたりしている。
- C児：双六で自分から友だちを誘ったり、質問に答えたりしている。

## 7 板書



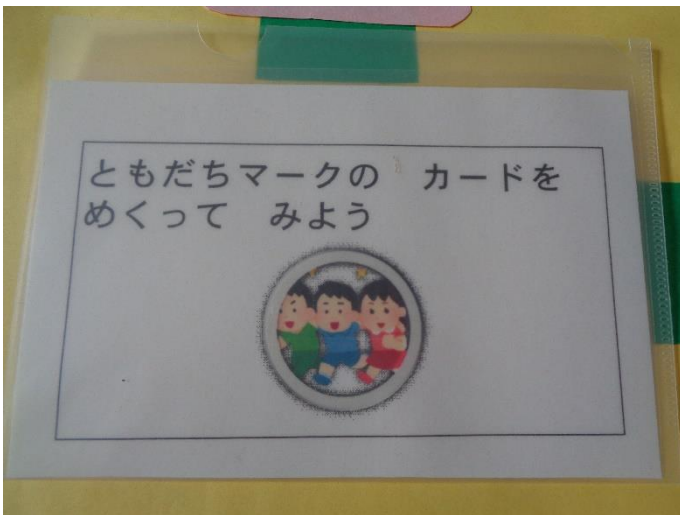
## 8 教材



### 【めあてステップアップ表】

児童が個々に立てためあてを達成していく過程を目に見える形で示した。児童のめあては、異なるが、「友だちマークがにあって」という言葉で、自分のめあてを意識づけた。

1時間の授業の振り返りで、前時よりもできたことを言葉にし、ステップアップしたことをお互いに3人で喜び合うポーズで写真も掲載した。ゴールを目指してステップアップしていく自分や友だちの姿を見ることで、達成感と共に、3人の仲間意識ももつことができた。



### 【友だちすごろく】

模造紙1枚に双六のマスを入れるクリアファイルを貼り、毎回マスの内容や位置を子どもが相談をしながら入れ替えた。

マスの内容は、一人で取り組む内容から、友だち3人の協力を得る内容などを取り入れた。また、「友だちマークのカードをめくる」では、5枚のカードを準備し、コマが止まったら、カードを1枚選ぶというわくわく感がもてるマスも準備をした。

マスの内容は、個々の自立活動の指導内容が含まれている活動を取り入れた。また、クリスマス会という設定の中で、双六はプログラムの中に一つとして設けた。

マスの内容の例として、「支援員の机を運ぶ」、「縄跳びを5回跳ぶ」、「エールをする」、「お昼寝をする」など30項目の内容を準備した。子どもが一番楽しく取り組んでいた内容は、「支援員の机運び」で、3回目には、「今度、どこにする？僕机運ぶから、～さん小さいから椅子運んでくれる？」「～先生、びっくりするね。」などとやりとりをしながら楽しく活動をする様子が見られた。